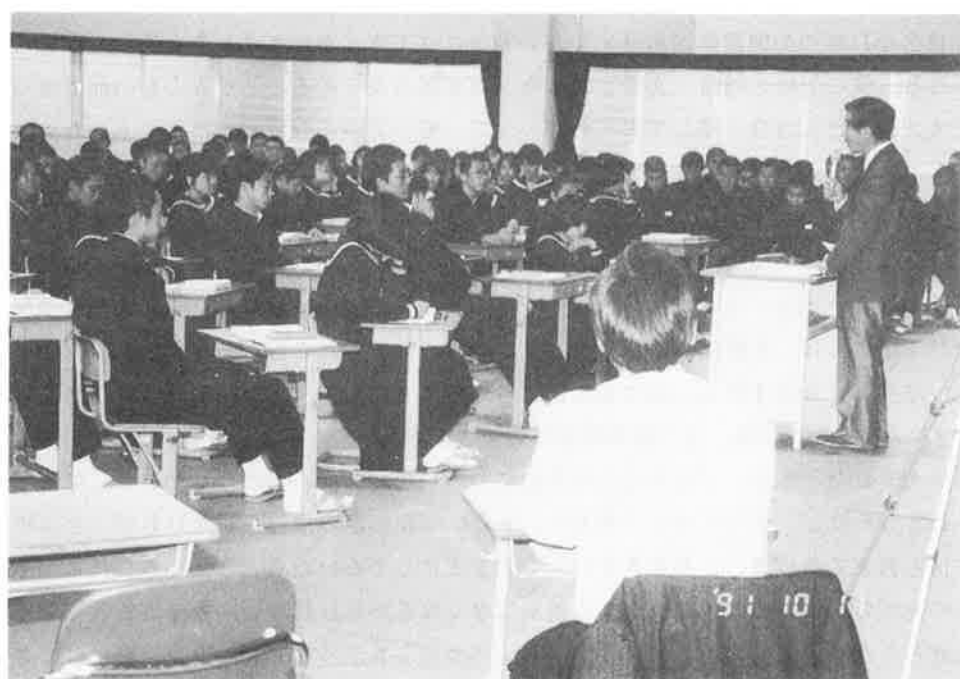
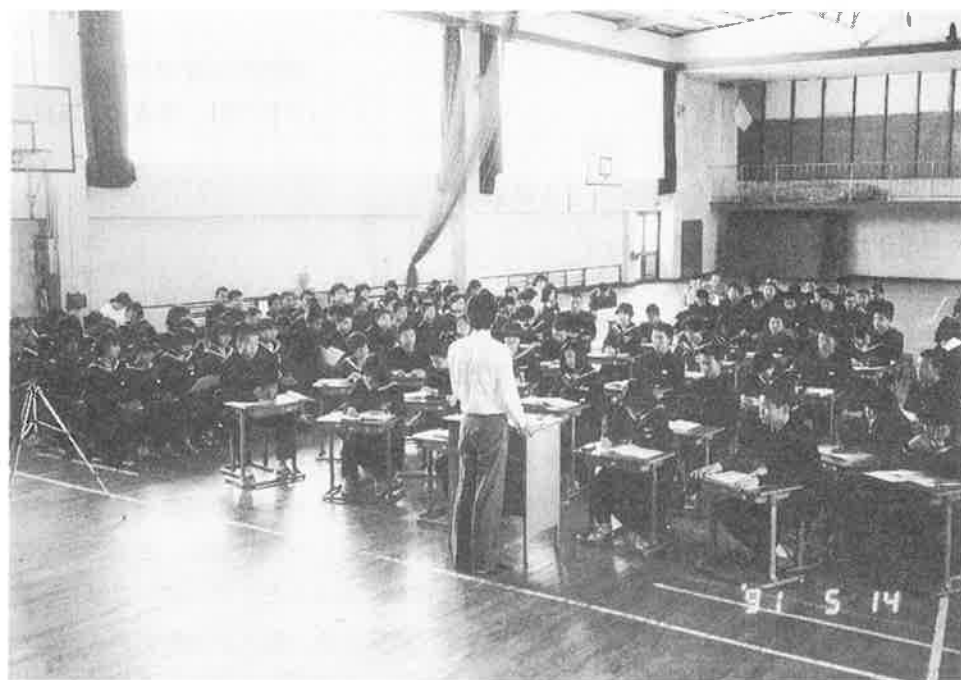


## Ⅱ 授業実践



## 【指導案】

### 同 和 問 題 （ 道 徳 ） 学 習 指 導 案

1991年4月30日（火）5校時

3年B組 指導者 森口 健司

① 主 題 人間らしい生き方を求めて

② 主題設定の理由

いよいよ義務教育最後の学年を迎えた。この最後の1年、すべての生徒に、一人一人の人間としての生き方に関わって同和問題をとらえさせたいと思う。昨年、本クラスの生徒は、学年一丸となって同和問題の学習に取り組む機会に恵まれた。すべてのクラスが、他のクラスの生徒の見つめる中で、同和問題に対する一人一人の思いを語り合い、その思いを土台として、学年全体で同和問題に関わる生き方を深める学習に取り組んできた。その取り組みの中で、学年全体が「私の目を見て！」の学習に取り組んだとき、その授業の最後の場面で、A子が必死に自分の中にあるもやもやした思いを語ろうとした。しかし、さまざまな思いがこみ上げていく中で、涙が溢れその発言は言葉にはならなかった。その思いは私には痛いほどわかった。その授業は、その発言で終わったが、授業の後、何人かの生徒がA子のそばに寄り添い、一人一人の思いを語り合う状況が生まれた。その場面を見たとき、私は本校において、生徒一人一人が同和問題を主体的に自分自身の生き方に関わる問題として、とらえ学んでいこうとする集団ができてきたと思った。その話し合いの中心にいたB子は翌日の生活ノートに次のような文章を記してきた。

『今日2年D組の公開授業がありました。最後にA子さんが泣きました。あとで理由を聞いてみると、前に美術の時間、A子さんは自分が部落出身であることをみんなの前で言ったそうです。A子さん自身、隠しておくのがいやで、そしてみんなにわかってもらいたかったらしいです。それからみんなに違う目で見られているようで怖いそうです。今日の授業のときも、みんなにわかってほしくてそのことを言おうとしたけど、涙が出てきて言えなかったと言っていました。I子さんやS子さん、M子さん、K子さん、N子さんなど、みんながA子さんのそばでいると、A子さんが、「I子さん、私のこと違う目を見たことある」と聞きました。I子さんは、正直に、「ごめん、今まで違う目を見たことがあったかもしれん・・・。けど、頑張ってなおすけん、何でも私に言うてきて・・・」そう言いました。A子さんは、少し泣きやみました。「私、もう同和問題の勉強したあない」A子さんが言いました。みんな、一瞬考えました。私は、「A子さんみたいにつらい思いをする人がいないように学習しよう」と言ったけど、後でけっこう考えた。もし、同和問題の勉強をしなければ、自分の子どもに何も教えてあげることができない。そのままにしておいたらどうだろう。何も知らずに育って友だちをつくって、そうしたら差別はなくなるかもしれない。本当にそれでなくなるものだろうか。正直に言って自分の心から、差別の心を全くなくすことは、私にはできないと思う。部落差別がなくなっても、やっぱり自分以下を求める心は残るだろうなあと思う。

そのために、部落差別やいろいろな差別。自分の中にある差別心。自分以下を求めているとする情けない心。そんな思いを美しくしていくために同和問題の学習は、大切に続けていかなければならないと思う。

私は、口先だけで、差別はいけない、差別をなくそうと言うてきた。また、いろんな資料をつかって学習してきたけど、今日、A子さんの涙を見て、A子さんの訴えを聞いて、はじめて、本当に部落差別を知った。すごくつらかった情けなかった。このことは、だれかが言うてくれなかったら、わからなかったことだと思う。そのだれかにA子さんがなってくれたこと、A子さんにありがとうが言いたい。私は大事な何かを知らんと大人になるとこだった。みんなも、今日のことで本当にわかったと思う。A子さんの質問に戸惑いながらも一生懸命に答えていたI子さん。たったまま一生懸命話を聞いていたK子さん、M子さん。最後に「A子さんが悪くない、悪いのは部落差別をつくった人間じゃ」と言っていたN子さん。みんないい友だちです。

今日の帰りK子さんとも、今まで話し合ったこともなかった部落差別について考えました。もうすぐテストです。みんなで頑張りたい。』

本学級には、9名の対象地区生徒がいる。A子を初めとするすべての対象地区生徒の悲しみを、みんなで幸せに変えていきたい。そのために、生徒一人一人の中に生きて働く力となる同和問題学習を徹底的に実践していかなければならない。

昨年度より始まった本学年での同和問題学習の営みが、学校全体の取り組みとなっていくことを願い、平成3年度授業研究のスタートとして「自分以下を求める心」の学習に取り組んだ。「自分以下を求める心」この資料は、生徒一人一人の生活に関わって明確に差別をとらえることができる資料である。

本資料「自分以下を求める心」にえがかれた思いは、だれの心の中にも潜んでいる。つらいとき人はもつとつらい思いをしている人をさがす。苦しいとき、人はもつと苦しみのどん底にいる人を思い自分を慰めていく。差別を受けたとき、自分よりもつと厳しく虐げられ差別のどん底で苦しみがいてる人を思い、自分は那些人たちよりまだましなんだと思う。そして、自分を守るために、自分を慰めるために那些人たちをより虐げ差別していく。この思いは生徒たちの日々の暮らしの中にもその思いは如実に現われてくる。テストが帰ってきたとき、その点数が悪くとも、隣の生徒の点数がもつと悪いとほつとする。その反対にテスト結果がよくても、隣の生徒の点数が同じようによかったら、その喜びは半減していく。仲間の悲しみを共有したり、仲間の喜びを共に喜ぶことがなかなかできない。私たちはまさしく差別社会の中で生きているように思える。以前この作品を学習したとき、ある生徒がこの作品に関わって次のような思いを語った。

『小さい頃、私はどちらかと言うと「いじめられっ子」でした。幼稚園の年長組の時、私はA町に引っ越してきました。前の幼稚園ではみんな仲よく遊んでいたけど、A町の幼稚園ではどうもなじめずいつも一人でした。小学校に入っても友達はずいぶんできず、数人の女の子にいじめられてきました。でも、クラスに一人私とよく似た「いじめられっ子」がいました。その子は、私よりもつとひどいことをされていました。でも、私はその子を見て「ああ、よかつ

た。私よりつらい子はまだいるんだ」ということを思い、その子がいじめられることで私は、ほっとした気持ちになっていました。私は今、そんな気持ちを持った自分がとても恥ずかしく、それ以につらい思いでいっぱいです。自分に何かできなかったのか、何もしなかった自分が、今とても情けないです。私はその子に一生謝っても許してもらえないことをしてしまったと思います。その子に対して私は何もしていないけど、私の心の中に大きな傷ができてしまいました。自分以下が欲しかったあまりに……。』

人は病気になると、もっと厳しい病気にかかっている人を思い、自分はまだあの人たちよりましなんだと思うように、人は常に自分以下を求めて生きているように思える。この「自分以下を求める心」を巧みに利用したのが部落差別であり、多くの人々がこの心に支配されているがために、部落差別をはじめとするさまざまな差別はなくなっていくように思う。人間として人間らしく生きるということは、私たちの心の中に潜んでいる自分以下を求める心と闘い続け、自分の幸せと共に仲間の幸せを築いていこうとする心を育てていくことだと考える。そして、この心が、いじめを生み、さまざまな人間の悲しみを大きくしていることをとらえさせ、この学習を通して、差別の本質を考えたいと思う。人として大切な生き方、人間らしい生き方とは何か。3年B組の話し合いを通して、このことを学校全体で考えたいと本主題を設定した。

### ③ ね ら い

差別の本質と自らの差別性に気づき、人間らしく生きるということを理解させ、常に真実を見つめ、同和問題解決に立ち向かおうとする意欲と実践力を身につけさせる。

### ④ 視 点 人権と差別

### ⑤ 指導計画

(1) 常時指導 朝の学級会活動、帰りの学級会活動を教育活動の中心に据えた、すべての教育活動の中で人間の生き方や生きることの意味を追求する営みを大切に、毎日の生活ノートの営みを核として、日々人間の生き方を語り合い、学級目標である「美しさを求めて生きる人生」を合言葉に共感と連帯の絆に支えられた学級集団をつくる。

(2) 関連的指導 道徳「峠」…………… 1 時間

進路決定の瞬間を1年後に控えた中学3年、生徒一人一人の中にはさまざまな不安が胸にわきおこっている。この1年、人間としてどのように生きていくか、人間としてあるべき姿を考えながら、主体的な生き方を自覚させるために、詩『峠』を一人一人の胸に刻みつける。

(3) 核心的指導 道徳「自分以下を求める心」…………… 2 時間（本時2/2）

(4) 発展としての関連

特活「すばらしい生き方に学ぶ」…………… 1 時間

同和問題学習の中で生徒一人一人がつかみ取ったもの、学び得たものをクラス全体で語り合い、人間としてよりすばらしい生き方とは何か、私たちが求めていかなければならないことは何かを確認し、生徒一人一人の部

落差別解消に取り組もうとする実践力を育てる。

(5) 常時指導（発展）

仲間の幸せの中に自らの幸せを見出し、仲間の悲しみをみんなで幸せに変えていこうとする共感と連帯の絆を土台とし、人間を大切にする、人間を尊敬する教育をよりいっそう推進していく。部落差別の悲しみは人間の悲しみなんだという視点に立ち、家庭・地域社会において部落差別解消に取り組む態度と一切の差別を許さない生き方をすべての生徒の中に育てる教育を実践していく。

⑥ 本時の指導

(1) 目 標

自分以下のいない生き方とは、何であるかを考え、お互いの存在を大切に認め合い、心をかよわせることが、差別解消につながるということを理解させ、部落差別解消に向けて積極的に取り組む態度を育てる。

(2) 展 開

| 学習活動                         | 主な発問と期待する生徒の反応                                                                                                                                                                                                                              | 指導上の留意点                                                                                                                                     |
|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 資料を読む。                     |                                                                                                                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身の生活を見つめながら読んでいく。</li> <li>・最も心に響いた部分に線を引かせる。</li> </ul>                                         |
| ② 最も心に残った部分について一人一人の思いを発表する。 | <p>○ 最も心に響いたところはどこか、それはどうしてか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分以下が欲しいがためにある子をいじめていったというところ。</li> <li>・努力しない人ほど他人のことをとやかくいうというところ。</li> <li>・今の自分以上をめざすという言葉。</li> </ul>                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ多くの生徒の発言も出させる。</li> </ul>                                                                      |
| ③ 自分以下を求める心について考える。          | <p>○ 自分以下を求める心とはどんな心だと思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人を見下げたり、差別したりして、自分を優位な立場において、努力もせず自分はましなんだと思う心。</li> </ul> <p>○ 自分自身の生活の中で自分以下を求める心はないだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テストの点が悪いときなど、自分より</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の生活の中で思うことを出し合うようにする。</li> <li>・自分自身の中に自分以下を求める心はないかということを一人一人の意見を確かめながら、学級全体で考えさせる。</li> </ul> |

| 学習活動                                                       | 主な発問と期待する生徒の反応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>④ 差別の本質について考えさせる。</p> <p>⑤ 資料を通して同和問題学習のあり方について考える。</p> | <p>もっと悪い点の友だちのことを思って、努力もせず自分はまだましなんだと思ってしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ つらいときに自分よりもっとみじめな人のことを見て、自分をなぐさめたり、その人をいじめたりする。</li> </ul> <p>○ 他の人が私をいじめたとき、私はどうしてその間違いがはつきりわからなかったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私はいじめられることや差別されることが、恥ずかしいことであるように思い込んでいたから。</li> <li>・ いじめたり、差別したりすることが、人間としていかに情けないことであるかということに気付いていなかったため。</li> </ul> <p>○ 『自分以下を求める心』という資料が訴えていることは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の中にある差別に気付いていく生き方を訴えている。</li> <li>・ 本当の人間の生き方とは何かを訴えている。</li> <li>・ 私たちのあるべき姿を訴えている。</li> </ul> <p>○ 自分の中にある差別心を洗っていくことはどんな意味があると思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間らしい生き方をつかんでいくことにつながる。</li> <li>・ 人の悲しみや苦しみがわかる人間になることにつながる。</li> <li>・ 自分の幸せだけでなく、他の多くの人々を幸せにしていく生き方につながる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の中に潜んでいる差別心を通して自分以下を求める心について考えさせたい。</li> <li>・ いやなことを他の人に押し付けていくだけでは差別の本質に気付くことはできないし、自分自身も差別者となっていくことに気付かせたい。</li> <li>・ 特に、『自分以下を求める心』の学習を全校生徒の前で、この1年の同和問題学習のスタートとして学習することの意味考えさせたい。</li> </ul> |

## 同和問題（道徳）学習指導案

平成3年 5月9日（木） 第5校時

3年C組 男子18名 女子19名

計37名

指導者 仁 木 真 之

（1）主 題 人間らしい生き方を求めて

資料：『同和教育の希い』（丸岡忠雄さんの講演より）

（2）主題設定の理由

○ 中学3年生は進路決定の年である。自分の思うところによってそれぞれの道を歩み始めるための準備の年でもあり大きな意味を持つ1年となることであろう。不安や焦りや迷いの中で自らの将来を見据えつつ自分の生き方を考えていかなければならない。本町内には板野高校がある。例年ほぼ半数強の生徒が進学をしているが残りの生徒は生まれて初めて板野町外に出、新しい環境の中で働き、学ぶことになる。板野高校に進学した生徒にしても周りの級友の3分の2が他町村の出身者の中での生活が始まる。それは新しい経験であり、今までは意識しなかった「ふるさと」と初めて向かいあうことにもつながっていく。

○ 昨年度より同和問題学習を学年全体で取り組んでいくことが出来るようになった。多くの友の前で自分の思いを語り、考えることの苦しさ喜びをしまった。その中から、同和問題学習を積極的に自分の問題として取り組む姿勢や差別解消に向けての熱い思いが生まれつつある。大勢の支えあう仲間の一步の前進を確認しあうことの喜びを知ってきた。対象地区生徒は自らの置かれた立場を自覚し、「同和問題学習なんかもうしたくない」と涙を流しながらも「逃げてはいけない」と自らを励ましつづけている姿がある。

『学習会のこととかを聞かれるとドキッとしながら答える。さも、差別に負けていないかのように。けど、内心嫌われたらどうしようとか、無視されたらどうしようとか、差別されないかとひやひやしている。気持ちの10分の7まではこの部落差別のことには触れたくないと思っている。10分の3は少しでもそういう気持ちを無くしたいと思う気持ち。今までは10分の8までは逃げ出したい気持ちだったけれど今では10分の7。10分の1、本当に少しだけれど私にとっては大きな進歩だと思う。みんなのなまの声を聞いて、「私と同じだ、逃げてはいけない。」と思い始めた。みんな真剣に考えているのに私だけがそっぽを向いていてはいけない。みんなの思いを聞いていると胸が苦しくなった。そういうことを感じる事が出来たということは私にとってとても大きなプラスになったと思っている。』

これは昨年一年間の全体学習を終えた後のT・Mの思いを綴ったものである。

また、地区外の A は次のような感想を書いてきた。

『現実の差別を思いしらされました。友達に苦勞している子がいるなんてしかなかったんです。涙流す子もいたり、声が震えている子もいました。まえの私だったらその子たちのことをやすつばい同情でしかみられなかったと思います。でも、このまえの授業では同情の眼ではみられませんでした。言葉で言い表せない気持ちが心からあふれていました。本当は自分でとてもびっくりしました。これでこそ同和問題に取り組んできた意味があるんだと思います。』

子供たちは今大きく成長しようとしている。現実から眼を反らしたり、建前だけの議論から離れ、自分自身を語ることが出来つつあるように思う。しかし、まだ入り口にすぎない。

○ 私はかつて丸岡さんの詩『ふるさと』を初めて眼にしたときは「そんなものなのか」という程度の感想であり、講演の中にある「どうしてそれぐらいのことでショックなのか、そんなことなんか笑い飛ばしておけばいいではないか。」という高校生の言葉とそう差は無かったような気がする。しかし、子供たちや同僚と真剣に同和問題に取り組み、詩の作者である丸岡さんの講演を知るに及んで『ふるさと』のもつ本当の意味がつかめてきたように思う。そして、講演記録を読んで一番初めに思い浮かべたのが上記の T・M の感想だった。「ひやひやしている」思いは丸岡さんが「そのことについては言うてはいけないんだ」という言葉とオーバーラップするものだ。これこそが今子供たちが感じている差別そのものだと思う。そう思った。

この丸岡さんの講演を抜き書きした『意識の芽生え』という小文がある。まさに、T・M も A もまた他の多くの生徒たちもこの「意識の芽生え」の段階にあるのではないか。入り口にある、という生徒の実態はこのことに他ならないのではないかと思うようになった。

○ なぜ、故郷を語れなかったのか、胸張って故郷を名乗ることとは一体どういうことなのか。「そんなにも重い、そんなにも辛いふるさとであるのに、なぜそうなのか」ということがまるでわからない」という丸岡さんの言葉をかみしめたとき私たちは 10 分の 1 だけ進歩した T・M の思いをさらに前進させたい。胸張って進ませたいと思う。中学校を卒業した段階から子供たちは新しい世界に入る。そこで、子供たちは自分の「ふるさと」を語らねばならない日がかならず来る。今はまだ実感としては遠いところにあるであろう「ふるさと」を今の自分の生き方、思いと照らしあわせることによって前進のための「てこ」としていきたい。中学まではある意味ではまだ「ぬるま湯」の部分がある。本当の生き方を問われてくるのはこれからである。今の段階では対象地区に生まれそのことを自覚している子供たちであっても『ふるさと』の詩のような実感は無い。まして地区外の子にとってはその思いは大きいだろうが、故郷を知って

いる人にさえふるさとの名を口にだしていうことが出来なかったという分けのわからない思いが差別なんだ、差別のスタートだったんだ、ということを押さえたいと思う。

○ 資料『同和教育の希い』は丸岡さんの詩『ふるさと』の背景を語ったものである。なぜ『ふるさと』の詩が生まれたのか。そして同和問題にどう係っていき目覚め闘ってきたかを語ったものであり、対象地区に生まれた丸岡さんの意識の変革を見事に展開してくれる。大きく3つ部分に分けて考えさせたい。その前半の部分は今のクラスの生徒の意識の段階にあう部分があり、この資料を何回かに分けて学ぶことによって子供たちは同和問題に対する共感と、学ぶことの必要性をつかみ、差別解消に向けて力強く生きていく力となるであろう。そして中、後半においてなぜこのような差別があるのかについて仲間の支えの中から目覚め立ち上がっていく姿は生徒に勇気と学ぶことの意味、仲間の支えの重要性を認識させ明るい展望を持たせることになるに違いない。今の生徒たちの意識をどうしてももう一步前進させたい、そして将来に向けてのくじけることの無い実践力をつけていってほしい、という強い思いがある。以上のような願いから本主題を設定した。

### (3) ね ら い

丸岡さんの生き方を通して自らの生き方を問い、差別解消に取り組む態度と姿勢を育てる。

### (4) 視 点 人権と差別

### (5) 指導計画

- ① 常時指導 朝始業前の教室における生徒との語らい、生徒が書いた分量より多くの返事を書いていきたいと思う「あゆみ」を通じての会話、給食、清掃での共同作業、欠席時の家庭訪問、朝夕の短学活の充実など、日常の当たり前の活動を重視するとともに学年通信の発行によって生徒相互、家庭、学校の連携を図り、常にあいての立場を考え、互いに支えあう学級集団を作り上げていく。
- ② 関連的指導 学級会活動「オリエンテーション」……………2時間  
自分の思いを大勢の前で語るための前提条件としての話合いの基本的な形を身に付けることによってより洗練された同和問題学習の話合いの充実を図る。
- ③ 核心的指導 道徳「自分以下を求める心」……………2時間  
道徳「同和教育への希い」……………6時間（本時 2／6）

丸岡忠雄『ふるさと』の背景を考えるなかから、仲間とともに差別解消に向かって立ち上がる実践力を育てたい。講演の記録を3つの部分に分けて指導する。各部分に2時間を当てることとした。

#### ④ 発展としての関連指導

##### 学活「自分の未来設計」

中学卒業後の自分の生活を考え、夢や希望の実現のために何をしなければならないか、また何が必要かを考えさせる。とくに地区生徒にたいしては同和問題から眼を反らせた生き方でなく正面からそれを見据えた生き方を考えさせたい。

#### ⑤ 常時指導（発展）

3年生には常に進路の問題が付きまとう。今はそう意識出来ていない部分があるとしてもいずれ必ず同和問題に直面することがある。その時になって堂々と自分の生き様を胸張って語ることの出来る子であって欲しい。どんなことがあっても負けてはならない。そのための支えあう仲間の必要性は今はよりよい学級集団を作ることにつながる。生徒とともに考え行動していきたい。また、全ての子供たちに、同和問題学習は自分の生き方を問うことだということの意味を繰り返し繰り返し考えさせていく。

### （6）本時の指導

#### ① 目 標

「ふるさと」の詩が生まれた背景を考える中から差別がどのような形で表れ、それに苦しむ作者の思いに迫る中から、ふるさとを語れないことこそが部落差別を象徴していることに気付かせ、なぜ、苦しんだか、どう行動すべきかを考えることによって差別の厳しさとそれに負けない生き方を考えさせる。

②展 開

|    | 学習活動                          | 主な発問と期待される生徒の反応                                                                                                                                                                                                                      | 指導上の留意点                                                                                                                                                      |
|----|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 『ふるさと』を読んだ感想を発表する。            | ○この詩を読んでどんなことを感じたか。<br>・なぜ、ふるさとの名がいえないのだろうと不思議に思う。<br>・ふるさがわかったくらいで死ぬ事はないと思う。<br>・丸岡さんの差別に対する激しい憤りが感じられて感動した。<br>・改めて差別の厳しさを感じた。<br>・死ぬのは弱い証拠だとおもう。<br>・差別をなくす目の強い決意が感じられる。                                                          | ・ふるさとの名とはどういうことなのか考えさせながら読む。                                                                                                                                 |
| 展開 | けもののような鋭さでふるさとをかくしたことについて考える。 | ○ 詩にある「けもののような鋭さ」というのは本文の中ではどういう事を指しているんだろう。<br>・母親の態度から言っではいけないと感じたこと。<br>・誰も教えてくれないのに隠すことを覚えた。<br><br>○ 何もないと思う、意味もわからない、のになぜふるさとの名を隠そうとするようになったのか。<br>・非常に貧しく生活の状態を恥ずかしいと思ったから。<br>・周りの感じから隠さなくてはいけないような感じになった。<br>・言いたくても言葉がでない。 | ・なぜ母親はその理由を言わなかったのか。言えなかった理由についてはあとで考える。<br>・ここでは誰も教えてくれなかった事をおさえておきたい。<br>・意味もわからぬままふるさとを隠すようになっていく状況をおさえる。<br>・うそのつけない相手にさえふるさとの名がいえない。隠すとうよりも言葉がでない状況である。 |
|    | ふるさとを隠す事の意味を考える。              | ○ ふるさとを隠すということはどういうことか考えてみよう。<br>・何か恥ずかしいという気持ちがある。<br>・おかしい。自分を正直に言えないというのは自分を恥ずかしいと思                                                                                                                                               | ・厳しい差別の現実のなかでふるさとを隠さざるを得なかった心情とそれでは差別の解消につながらないことを確認する。                                                                                                      |

|    |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                   |
|----|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |              | <p>っていることになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・差別を認めることになる。</li> <li>・厳しい差別があることの証拠である。差別がある以上しかたない点もある。</li> </ul> <p>○ ふるさとを名乗るということはどういうことか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部落酪宣言をするのと同じことである。</li> <li>・差別に負けぬ強い心を持っていくこと。</li> <li>・この世から差別が無くなって欲しいという願いの表れ。</li> <li>・差別を許さない気持ち。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとを名乗ることは差別と戦うことであることをつかませたい。</li> </ul> <p>部落差別の象徴としてふるさとがある。</p>                      |
| 発展 | 丸岡さんの生き方について | <p>○丸岡さんはふるさとの名を隠したしかし、今このような詩を残し私たちに勇気を与えてくれている。どのような人生を歩んだと思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隠していきることの間違いに気がついた。</li> <li>・勉強することによって差別の間違いに気がついた。</li> <li>・隠すのがおかしいと気付いたときから差別解消に向かって立ち上がった。</li> </ul>                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・丸岡さんをかりて生徒に生き方を聞いていきたい。</li> <li>・隠すことの意味を教えられなかった母の生活から丸岡さんの生きかたを考えさせることができる。</li> </ul> |

